

< 仮訳 >

日 EU ビジネス・ダイアログ・ラウンドテーブル
6月3～4日、ベルリン
“競争力と持続性のための協力”

プレスリリース

日・EU 首脳会議に先立ち、2007年6月3～4日の両日、ベルリンのドイツ産業連盟（BDI）本部において、日・EU ビジネス・ダイアログ・ラウンドテーブル（BDRT）は年次会議を開催した。同会議は、日本およびEUの主要企業経営者が一堂に会し、UCB会長のジョルジュ・ジャコブ男爵および東芝会長の岡村正氏が共同議長を務めた。

両共同議長は、BDRTの提言書を、日EU首脳である、アンゲラ・メルケル・ドイツ連邦首相、安倍晋三日本国首相、およびジョゼ・マヌエル・バロゾ欧州委員会委員長に手渡す予定である。

同会議は、日EU産業界の協力へ向けてのステップとなるもので、WTOドーハ開発アジェンダ（DDA）交渉、日EUの経済協力、イノベーション、およびエネルギー・気候変動といった日EU産業界に影響を与える主要課題について議論された。

WTO・DDA交渉の強力な支持者として、BDRTは引き続き欧州委員会ならびに日本政府に対して、今年末までにこの野心的な交渉が締結されるために最大限の努力を發揮することを要請する。特に、EUと日本は、拘束力ある貿易円滑化協定と、工業製品とサービスについての新たな商取引の機会へと導くラウンドの成功かつ野心的な結論を出すべく、主要な参加者の間での努力に焦点を当てるべきである。

BDRTは、まだ十分に活用されているとは言い難い、日・EU経済関係の潜在的可能性を十分に深めるために必要な諸条件を創ることに尽力する。この観点において、またWTOへのコミットメントの意味においても、BDRTは日本およびEUの政府当局に対して、日・EU間の経済統合協定（EIA）とも言うべきもののフィージビリティを調査するためのタスクフォースを産業界の支援の下に設立することを提言する。これは規制改革の協力強化、知的財産権、貿易拡大、および投資環境改善のようなビジネスにとっての優先課題を含む質の高い経済協定であるべきである。EUと日本の産業界は、2008年のBDRT会議までにこのタスクフォースの結論が出ることを期待する。

B D R Tメンバーは、適正な価格で環境に適した資源・エネルギーを確保できるようにするための共同のチャレンジに大いに注目した。B D R Tは、既存技術の普及促進や革新的技術開発による脱化石燃料化およびエネルギーの効率的利活用の促進を支援する。

ポスト京都議定書の枠組みは、米国、中国、インド等の排出大国の参加が必須である。これを実現するため、国別絶対値目標に代わって、エネルギー効率指標に基づくセクトラルアプローチが代替案となりうる。

注記

B D R Tには、欧州委員会からギュンター・フェアホイゲン副委員長、ドイツ連邦政府からゲオルグ・ブームガーデン外務副大臣の参加があり、日本からは山本幸三経済産業副大臣、松島みどり外務大臣政務官、清水英雄総務省総務審議官が参加した。

次回のBDRT年次会議は2008年夏に東京で開催予定。

メディア連絡先： 日欧産業協力センター/EU-Japan Centre for Industrial Cooperation

日本事務所： チーフ・オフィサー 佐藤桂子

Tel: 03 3221 6161 E-mail: eu-japan@eu-japan.gr.jp

欧州事務所： 所長 ディアンヌ・ヴァン・ボクスタル

(Mrs. Diane Van Bockstal, Director)

Tel: +32 2 282 0040 E-mail: office@eu-japan.com

株式会社 東芝： 社会・産業部産業関連担当 小林恒行

Tel. 03 3457 8366 E-mail: tsuneyuki.kobayashi@toshiba.co.jp

B D R Tホームページ： <http://www.eu-japan.com/europe/roundtable.html>